第六章　フィレンツェ・ピサ・モナコへ

一　フィレンツェ

フィレンツェは、イタリアの中部のやや北寄りにある都市で、モナコ・マルセイユへ向かう鉄道の中途でもあり、再びイタリアに戻った旅路での大きな目的地であった。ご存知のように、サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂（ドゥオーモ）、ヴッキオ橋、ウフィツ美術館、ダビデ像など、見どころ満載の都市である。

駅に着き、早速、ホテルを紹介してもらい、こじんまりした部屋に落ち着いた（朝食付きで１７００円程度）。観光名所は、すべてホテルから歩いて行ける場所にあった。

早速、ヴッキオ橋、ウフィツ美術館を目指した。

ウフィツ美術館は、ルネサンスを代表している作品を数多く観られる美術館である。また、建物の外観・室内とも美しい。彫刻が並ぶ回廊を通り、ボッティチェリの『春』や『ビーナスの誕生』が飾られている部屋に入った。この目で著名な絵を確認することができた。館内からの眺めと思うが、ドゥモーが見える眺望が完璧であった。

フィレンツェ（道路など適当）

ヴェッキオ橋

ウフィツ美術館前の広場

ウフィツ美術館の中

次にミケランジェロの『ダビデ像』[1]を捜した。ウフィツ美術館近くにもダビデ像があったが、レプリカらしい、本物はアカデミア美術館にあるとのことで、そこへ向かった。着くと大勢の人達が『ダビデ像』を取り巻いていた。写真撮影が許されていたので写真をたくさん撮った。高さが約５ｍもある像で、下から見ると全体のバランスがよく分からない。ミケランジェロの代表作の一つで今にも動き出しそうな気配まで感じさせる像だが、個人的には、前述のピエタ像の方が美しいとは思う。

ウフィツ美術館からのドゥオーモの眺め

フィレンツェの眺め

ダビデ像

1　古代イスラエルの王。羊飼いから身を起こし王となった。羊飼いの杖と石投げだけを持ってゴリアテを倒したとされる。石を投げようと狙いを定めている場面の作品とされている。ドナテッロの『ダビデ像』も有名。『フリー百科事典　ウィキペディア日本語版』。２０２３年10月20日（金）08：16　ＵＴＣ　URL:https://ja.wikipedia.org/wiki/ダビデ

フィレンツェを見どころなどの詳細については、ぜひガイドブック・美術本・各種のエッセイなどを読んでいただきたい。映画[2]でも素晴らしいシーンを見ることができる。

街の景観や美術館の他に記憶に残っていることは、宿近くの小さなレストランに入った時のことである。ローマではビッフェスタイルを利用することが多かったが、この時は、思い切ってレストランに入った。

さて、メニューリストを持ってきてもらったが、イタリア語は読めない。困った。かろうじて、オムレツ、ビフテキだと思われる料理は何とか分かった。そして、ビフテキを注文した（６００円程度だった）。出てきたのは、骨の付いたビフテキの皿だった。初めての骨付きのビフテキであったが、ものすごく美味しかった。

フィレンツェでは、街中の景観、『ビーナスの誕生』そして『ダビデ像』の印象も強いが、このレストランでメニューが読めなかったこととステーキが美味しかったことの記憶も強い。後で調べてみるとフィレンツェの名物料理[3]とのことであった。なお、宿の近くの通り沿いに様々な手作りパスタを展示している店があった。小さいが様々な形状のものがあり珍しかった。次にチャンスがあればその時は食べてみたい。

花の都と言えば、日本ではパリであるが、フィレンツェも花の都と呼ばれている。美術館に入らなくても街を散策するだけでも、ヨーロッパの歴史や美しさを感じることができる。しかも、パリとは異なり歩いて回ることができ、空がいつも見えるので楽しめると思う。

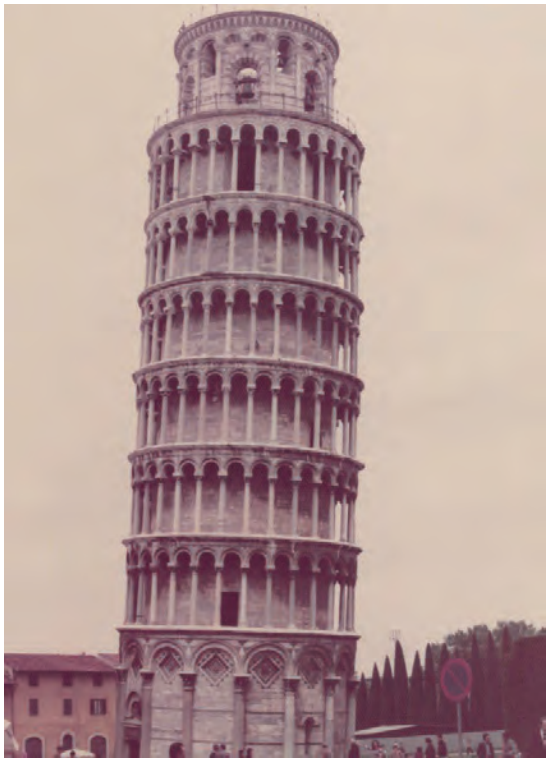
イタリアにもう一度行けるのであれば、フィレンツェはぜひ再訪したい。そして、ビフテキと小さめのパスタを食べたい。

2　例えば、『冷静と情熱のあいだ』２００１年に公開された日本映画。竹野内豊、ケリー・チャンが主演。フィレンツェの他、ミラノの街も出てくるが、ドゥオーモでの再会シーンなど見所がたくさん。ぜひご鑑賞を。イタリアのシーンも楽しめるが映画そのものももちろん楽しめる。ケリー・チャンが魅力的と思う。このタイトルをもじって恥ずかしいが「冷静と欲望のあいだ」とよく使っていた。
『フリー百科事典　ウィキペディア日本語版』。２０２３年４月８日（土）ＵＴＣ　URL.https://ja.wikipedia.org/wiki/冷静と情熱の間

3　フィレンツェで一番有名な郷土料理と言えば、間違いなく『ビステッカ アッラ フィオレンティーナ』で、日本ではフィレンツェ風Ｔボーンステーキと表記されることが多い、ボリューム満点の骨付き特大ステーキとのこと。大迫力のフィレンツェ風ステーキトゥッタ・イタリア、URL.https://www.tutta-italia.com/destination/13607.html/　２０２３年10月31日現在。

二　ピサの斜塔

さて、フィレンツェを堪能し、次の目的地のモナコへ向かうことにした。鉄道の経路をユールレイルパスの地図や時刻表で調べてみると、中途にピサ市があり、有名なピサの斜塔が駅から歩いて行ける場所にあることが分かった。ただし、この日中にフランス・モナコに入り、宿泊は、モナコでと決めていたので時間はなかった。時刻表を調べると、ピサの駅で途中下車し、二〜三時間以内で次の列車に乗れば、何とか夜遅くでもモナコ着が可能であることを確認した。ピサの斜塔をこの目で見て、写真を撮りたい。なんと、ミーハー的・せわしい予定であろうか。私の性格が出た決定であった――それでも決行。方向を確認し、急ぎ足に歩いた、走った。しばらく行くと、斜塔のテッペンが見えてきた。そして、斜塔の真下近くまで行くことができた。写真撮影をする時間のみがあった。周辺を見たりすることもせず、時計を気にしながら、駅にすぐ逆戻り。そして、予定の列車になんとか乗った。



ピサの斜塔

三　モナコ駅で

予定の列車に乗ったところまでは良かった。少々、夜の遅い時間にはなるが、モナコで下り、小さなホテルに泊まり、翌日より、モナコのカジノや「モナコ海洋博物館」などを観光する予定であった。

しかし、モナコ駅へ着くと、なんと、人、人、人……――これは何だ！　最初は分からなかったが、今日はモナコ・グランプリレース[4]の最終日で先ほどまでレースなどが行われていたことが分かった（五月十一日、日曜日）。困ったが、宿を見つけるしかない。インフォメーションセンターが閉まっていたので街に出た。泊まれそうなホテルの看板を見つけ、手当たり次第に英語で「部屋が空いていませんか？」を繰り返した。答えは「コンプレ・コンプレ」の連続で、フランス語で満室と答えているようである――最初はコンプレという発音が十分聞き取れなかったし、コンプレの意味も知らなかった――ただ、表情から「一杯だよ、こんな日に空き部屋なんかあるはずない」と言っていると推測された。何軒回ったかは覚えていないが、諦めて駅に戻り、モナコ駅のベンチを借りて初めて野宿することとした。

しかし、しばらくすると、駅員から声を掛けられ、「ここは野宿禁止だ」と言われた。正確にはそう言っているように思われた。野宿もあきらめざるを得なかった。

――さぁどうする？

4　モナコグランプリは、モナコ公国のモンテカルロ市街地コースで行われるＦ１世界選手権レースの一戦である。Ｆ１カレンダーのなかでも最も厳しいコースのひとつと言われており「世界３大レース」の１つに数えられ、Ｆ１およびモナコの象徴ともいえる名物レースとなっている。五月の木曜日開催が定例などとのこと。
モナコグランプリ、『フリー百科事典　ウィキペディア日本語版』。２０２３年７月２日（日）13：00　ＵＴＣ　URL:https://ja.wikipedia.org/wiki/モナコグランプリ